

令和2年度文化芸術による子供育成総合事業

「じゅんかいこうえんじぎょう巡回公演事業」

< 公演団体名 梅若研能会 >

< きょうげん かみなり 狂言「雷」 のう ふなべんけい 能「船弁慶」の公演 >



「船弁慶」の写真（撮影：前島写真店）

「ぶんかげいじゆつ文化芸術によるこどもいくせいそごうじぎょう子供育成総合事業—じゅんかいこうえんじぎょう巡回公演事業—」

我が国の一流の文化芸術団体が小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。

また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

種目／公演数	実施校名	都道府県	市区町村名
歌舞伎・能楽 14公演	いわき市立植田中学校	福島県	いわき市
	伊達市立霊山中学校	福島県	伊達市
	二本松市立新殿小学校	福島県	二本松市
	郡山市立郡山第六中学校	福島県	郡山市
	二本松市立川崎小学校	福島県	二本松市
	上尾市立西中学校	埼玉県	上尾市
	太田市立生品小学校	群馬県	太田市
	栃木県立佐野高等学校附属中学校	栃木県	佐野市
	足利市立葉鹿小学校	栃木県	足利市
	益子町立七井小学校	栃木県	益子町
	那須塩原市立箒根中学校	栃木県	那須塩原市
	川口市立元郷小学校	埼玉県	川口市
	加須市立昭和中学校	埼玉県	加須市
	行田市立南河原中学校	埼玉県	行田市

- 梅若研能会の前身である梅若万三郎家の歴史はおよそ600年に遡ります。発祥には諸説ありますが、左大臣橘諸兄を祖とします。初世万三郎は、五十三世実の長男ですが弟の六郎に本家を譲り、現在の万三郎家を起こしました。昭和3年1月に研能会を設立し、以降昭和19年戦争激化のため休会するまで、演能回数は155回を数えます。
- 昭和21年染井の松平家舞台で再開し、以後今日まで毎月公演を継続しております。
- 昭和49年10月に財団法人に改組し、平成24年4月内閣府の認定を受けて公益財団法人となっております。
- 海外公演もベルギー、フランス、ドイツ、ラトビア、イギリス等多くの国々で催行してきました。

知っていますか？ ～10月1日は「国際音楽の日」です～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

きょうげん いずみりゅう かみなり
狂言 和泉流「雷」のあらすじ

みやこ す やぶいしゃ かせ とうごくたび とちゅう ひろ のほら で
都に住む藪医者が一と稼ぎしようと東国へ旅をする途中、広い野原に出ます。する

きゅう そら くら くも き め みそこ ちじょう こし ほね
と急に空が暗くなり、雲の切れ目を見損なって雷がガラガラと地上に落ち、腰の骨を

つよ う ちりょう めい はり こ いた さわ
強く打ってしまいました。治療を命じられた藪医者が、針を腰に打ち込むと痛みが騒ぐ
雷。

なほ かえ ちりょうだい せいきゅう
やがて痛みが治り帰ろうとするので、藪医者はあわてて治療代を請求すると、雷は

も あ あめかぜ ひ で すいがい まも やくそく
持ち合わせがないため、雨風をコントロールして日照りや水害から守ることを約束して

てん
天に帰っていくのでした。

のう ふなべんけい
能「船弁慶」観世流のあらすじ

げんじ へいけ あらそ ものがたり おお ひと し よしつね べんけい どうじょう
源氏と平家の争いの物語で、多くの人知っている義経や弁慶が登場するわかりや

のう さいこく い ふね かいじょう だ さいしよ は そら くる くも
すい能です。西国へ行くために、船を海上に出すと最初は晴れていた空に黒い雲が・・・

ま おそ ぼうふう ふ うみ あ ふね おおなみ ただよ こ は せんどう
間もなく恐ろしい暴風が吹き、海が荒れて船は大波に漂う木の葉のよう。船頭(アイ)

あ くる なみかぜ かくとう ぼめん だんのうら ほろ
が荒れ狂う海で波風と格闘する場面が見ものです。壇ノ浦(山口県下関)で義経に滅ぼさ

へいけいちぞく たいらのとももり おんりょう あらわ こかた おそ か
れた平家一族の平知盛の怨霊が現れて義経(子方)に襲い掛かります。怨霊は、弁

ひっし いの よ あ おき かなた すがた け
慶の必死の祈りによって、夜が明けるころ沖の彼方へと姿を消すのでした。

うた
「船弁慶」を謡ってみよう

こかた
子方 そーの一と一きーよーしーつーねーすーこーしーもーさーわーがーず。

じうたい
地謡 そーの一と一きーよーしーつーねーすーこーしーもーさーわーがーず。

うーちーもーのーぬーきーもーちーうーつーつーのーひーとーにー。

むーこーおーがーごーとーくー こーとーばーをーかーわーしー。

たーたーかーいーたーまーえーばー。

* コロナウィルス感染予防のため、謡を「能面体験」に変えることがあります。

鑑賞の手引き

「船弁慶」は、前半が 静 御前 (女性の役)、後半は 平 知盛 (武将の亡霊役) と主役の

人物が違います。

登場する人物 前シテ・・・ 静 御前 今回は登場しません。

後シテ・・・ 平 知盛の亡霊

子方・・・ 源 義経 このたびは、生徒が勤めます

ワキ・・・ 武蔵坊弁慶

ワキツレ・・・ 義経の家来

アイ・・・ 船頭

役の説明 シテ・・・ 主役のこと。一曲一人で、能面を付ける。

ワキ・・・ シテの相手役。男の役で能面は付けない。

ワキツレ・・・ ワキに従う人。

子方・・・ 少年 (変声期前) が扮するキマリになっている役。

アイ・・・ 物語の説明をする役。狂言方がつとめる。

地謡・・・ シテ方の役者が地謡座という場所に 6人～8人が

前後二列に正座して斉唱する。

後見・・・ 開演前に能面、装束及び作り物等の点検。

シテの装束付、上演中はシテの介添役をする。